

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は一ページ（表紙を除く）から十九ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いつさい応じない。それ以外のことがらについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
  - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
  - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
  - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
  - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名

受験番号

一 次の各問いに答えなさい。

問一 漢字の読みが間違っているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 出納(すいとう)      ② 風情(ふぜい)
- ③ 流布(りゅうふ)      ④ 嫌悪(けんお)

問二 送り仮名の間違っているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 傍ら      ② 培かう      ③ 費やす      ④ 著しい

問三 「性格や言動に飾り気がなく純粋な様子」の意味となる四字熟語を選び、番号をマークしなさい。

- ① 天衣無縫      ② 单刀直入
- ③ 清廉潔白      ④ 正真正銘

問四 「親睦をハカる」の傍線部の漢字として正しいものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 謀      ② 測      ③ 計      ④ 図

問五 「人生の幸不幸は予測ができないこと」を表す故事成語を選び、番号をマークしなさい。

- ① 塞翁が馬      ② 雨後の筍
- ③ 破竹の勢い      ④ 杞憂

問六 次の傍線部と対義語の関係にある熟語を選び、番号をマークしなさい。

もう少し慎重に行動する必要がある

- ① 過激      ② 軽率      ③ 危険      ④ 疎遠

問七 次のうち敬語表現が正しく使われているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 部長が会議で発言申し上げました。
- ② 先生がレポートを拝見しました。
- ③ 社長がただいまお戻りになりました。
- ④ 私がこの書類をご覧になります。

問八 春の七草ではないものとして正しいものを選び、番号をマークしなさい。

- ① すずしろ      ② ふきのとう
- ③ はこべら      ④ なずな

問九 次の俳句は、一日のいつ頃の情景をうたったものかを選び、番号をマークしなさい。

菜の花や月は東に日は西に

- ① 早朝      ② 正午      ③ 夕方      ④ 深夜

問十 「ころ」の作者を選び、番号をマークしなさい。

- ① 芥川龍之介      ② 川端康成
- ③ 太宰治      ④ 夏目漱石

## 二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

そもそも、スマホ時代の哲学といっても、そんなもの急に始められるのかと思う人もいるでしょうが、<sup>①</sup>広ギの携帯電話についてはいろいろな研究があります。私がとても好きな研究者に、シェリー・タークルというMIT（マサチューセッツ工科大学）の心理学者がいるのですが、彼女は2011年に出された本で興味深いエピソードを紹介しています。

それほど前の話ではないが、私が教えている大学院生の1人が、ある体験を話してくれた。彼が友人とMITのキャンパスを歩いていたとき、その友人が携帯にかかってきた電話に出たというのだ。彼はそれが信じられなかったと言う。怒りをにじませた口調で、「彼は僕の話を保留にしたんですよ。どこまで話したか僕が覚えていて、彼の電話が終わったら、そこから始めろということですか？」と言った。当時は、彼の友人の行動は無礼で周囲を戸惑わせるものだった。だが、それからほんの2、3年で、それは当たり前行動になった。

携帯電話が急速に普及した当時、対面での会話を保留して、モバイル端末で「ここにいない人間」の対応を優先することに当時の人は驚愕<sup>がく</sup>し、戸惑っていたということです。<sup>②</sup>もう忘れて久しい感覚かもしれません。

タークルが警戒心を示すのは、画面の向こう側やりとりや刺激を優先して、対面の関係性や会話を保留するという新しい行動様式をモバイル端末が可能にしたことです。家で映画を観ていても、誰かと会ったり話したりしていても、テキストや電話、動画やスタンプ、ゲームやその他の様々な何かで中断してしまう。

**I**、複数のタスク（マルチタスク）と並行して、対面でのやりとりや行動を処理することに現代人は慣れてしまったのです。あるいは、対面・現実の活動も、「マルチタスキング」の一つとして組み込まれてしまうと言うべきでしょうか。並行処理すべきタスクの一つとして、現実の会話を捉える習慣がここにはあります。

<sup>③</sup>物理的にある場所においても、実際には別のところにいることは珍しくありません。信号待ちをしたり、スーパーのレジを待ったり、会議に出席していたりするとき、興味を惹くものがなくて退屈するなら、私たちはスマホを焦ったように取り出して、音楽を聴き、SNSを開き、誰かにテキストを送り、動画や記事をシェアしています。

このくらいならなんてことはありませんが、次の事例はどうでしょうか。

最近のティーンエージャーは、公園に向かって歩きながら携帯で話したりテキストを読んだりする親に育てられた。親は片手でテキストを打ちながら、もう一方の手でブランコを押していた。ジャングリズムの子どもを見上げながら電話をしていた。ティーンエージャーたちは、送り迎えの車中でも、家族でデイズニーのビデオを観ているときも、親たちがモバイル機器を使っていたという話をする。

同じく2011年のタークルの本からです。電話というのがピンとこなければ、SNSや動画サイトなどと置き換えてください。

**Ⅱ** これは一概に責められるものではないでしょう。例えば、大人が観るにはいささか単調な同じ映画を、一緒に観てくれと何度も何度もせがまれることが微妙な気持ちにさせることは想像するまでもありません。思わずスマホを取り出したくなるはずです。それに、親しい人との食事中にスマホを触るなど、今日ではもはやよくあることですよね。

持ち歩けるデバイスを使って、ここではないどこかで別の情報を得たり、別のコミュニケーションに参加したりすることが可能になった状況を、タークルは「常時接続の世界」<sup>④</sup>と呼びました。スマホ時代の哲学のキーワードは、「常時接続」です。常時接続の世界において生活をマルチタスクで取り囲んだ結果、何一つ集中していない稀薄な状態<sup>きはく</sup>について、特に人間関係の希薄さを念頭に「つながっていても一人ぼっち」と彼女は表現しています。

メディア論では、「人の感覚がテクノロジーによって書き換えられていく」という考え方をすることがよくあります。「技術は **X**なものだ」と語る人がたまにいますが、これは実状に反しています。実際には、新たなテクノロジーは普及するにつれて、行動様式、感じ方や捉え方、ものの見方を具体的に変えていくのです。

技術が感性のあり方を左右していくのだとすれば、スマホを手にした私たちはどう変わってしまったのでしょうか。問題点について考えるわけなので、この変化によって失われたものにフォーカスしてみましょう。技術について考える中で、私たちは原理的な問い、平たくいえば「**⑥**そもそも論」に巻き込まれていくとタークルは言います。「私たちは本当に重要なものは何かという疑問に立ち返っていく」ことになるのだと。スマホの先にある「本当に重要なもの」とは何でしょうか。

常時接続の世界で失われたもの。いろいろな論者の見解を私なりに整理して総合するなら、それは二つの観点から説明できます。それは、「孤立」と「孤独」です。それぞれについて言い換えれば、他者から切り離されて何かに集中している状態と、自分自身と対話している状態のことです。

常時接続の世界の行動について立ち止まって考えればわかることですが、私たちは、<sup>⑦</sup>反射的なコミュニケーションを積み重ねています。いろいろなものを保留しながら、短いテキストやアクションで表面的な返答を順次していく。

**Ⅲ**、こんな光景はありふれたものでしょう。対面で誰かと話しているときに、スタンプと短いテキストで4人にLINEを返し、フリマアプリからのお知らせをスルーして、早送り機能でソシャゲのストーリーを進め、X (旧Twitter) でいくつかの記事を熟読せずにリポストし、Instagram で気に入ったインフルエンサーの薦める服を保存しておく。

<sup>⑧</sup>ここで失われているのが「孤立」です。何か一つのことに取り組み、それに集中するにはあまりに気が散っていて、いろいろなコミュニケーションや感覚刺激の多様性が、一つのことには没頭することを妨げてしまっています。ここで念頭に置かれている「孤立」の喪失」は、マルチタスキングによる注意の分散のことであり、これは、メディア技術が可能にした「アテンションエコノミー (注意経済)」の一つの帰結でもあります。

インターネットでは、広告や利用者の囲い込みなどをベースに成り立っているビジネスが多いですが、<sup>⑨</sup>アテンションエコノミーは、そうした環境で成り立つ経済のあり方のことです。具体的には、情報の内実や質よりも、人の注目それ自体が価値を持つことを指しています。

アテンションエコノミーにおいては、コンテンツ、広告、製品、サービス、ウェブプラットフォーム、オンラインサロン、YouTube チャンネル、インフルエンサーなどのいずれも、どれくらいの人々がそれに注目し、クリック数や購入者数、登録者数、売上などがどれくらい具体的に動いているかという、数量的な「動員」(エンゲージメント)こそが問題になります。

あらゆる人間やイベント、商品などがアテンション (＝注意) を奪うことに最適化しています。商品やサービスが私たちの注意を奪い合うだけでなく、私たち自身もSNSの発信を通じてそうした注意の奪い合いに参加しています。

この消費環境は明らかに注意の分散に貢献していますが、別に企業や技術だけのせいでもありません。私たち自身が、日夜スマホを通じて注意を分散させる試みに喜んで参加していることを進んで認める必要があるでしょう。スマホを触りながらの対面コミュニケーション

ンでは、相手の会話は薄く聞くだけ、小難しい内容は無視する、何か聞かれたら生返事、そんなやりとりが関の山でしょう。こんな環境で、「消化しきれなさ」「モヤモヤ」「難しさ」の類を抱えておくなんてやってられないとしか思えないはずです。

残念ながら、注意の分散によっておろそかになるのは、対面のコミュニケーションだけはありません。マルチタスク的に処理しているあらゆるものが、同時並行している分だけおろそかになっています。漫画を読むことも、電話をすることも、音楽を聴くことも、誰かとテキストをやりとりすることも、全部です。

さらに悪いニュースとして、タスクが危惧する以上のことが起こっています。つまり、スマホを通じて注意を分散することに慣れた私たちは、スマホを使っていないときでさえ、気もそぞろで対面のやりとりをしているらしいのです。

いくつかの研究が示唆するところでは、スマホを触っていないくても、そこにスマホがあるという事実が、対面の会話に影響を与えている可能性があります。具体的には、スマホがあるだけで会話での共感レベルが下がり、話題がスマホに左右される恐れがあり、自他の感情や心理状態への注意が削がれかねないのです。

恐らくこの背景には、注意の分散があるのでしょう。一つのことには十分注意を向けて、それについてあれこれ考える習慣そのものが衰退しているのだとすれば、やはり〈孤立〉が重要になってきます。ここでいう〈孤立〉とは、気を散らされる事態から距離をとることです。

いろいろな事柄や相手に注意が分散しているわけですから、対面での会話が作業するようにこなされてしまうのは当然です。反射的なコミュニケーションで自分を取り巻くことは、相手の人格や心理状態を想像しないようにと日夜練習を積み重ねているようなものです。マルチタスク化した生活がもたらす〈孤立〉の喪失は、なかなか問題がありそうです。

常時接続の世界では、〈孤立〉だけでなく〈孤独〉もまた失われつつあるという話でした。〈孤立〉は、注意を分散させず、一つのこと集中する力に関係するのに対して、〈孤独〉は、自分自身と対話する力に関わっています。

やはりタスクが、印象深い事例を挙げているので、これを手がかりにしましょう。

先日、仲がよかった友人の追悼式に出席したとき、プログラムが書かれたクリーム色のカードが用意されていた。そこには弔辞を述べる人の名前、音楽を演奏する人の名前や曲名、そして若く美しかったころの友人の写真が載っていた。私のまわりの何人かは、

そのプログラムで携帯電話を隠し、式のあいだにテキストを送っていた。

その中の1人、60代後半とおぼしき女性が、式のあと私のそばに来て、当たり前のような口調で「あんな長い時間、電話なしで座っているなんて無理ね」と言った。式の目的は、時間をとってその人に思いをはせることではないのか。この女性は、手にして10年にも満たないテクノロジーのせいで、それができなくなっているのだ。

これが<sup>⑪</sup>〈孤独〉を欠いた状態の一例です。心当たりのある人もいるでしょうか。

実は私自身そうです。祖母の葬式に出て遺体が焼かれるのを待っているとき、スマホを触りたくて仕方がなかったことがあります。そのときの私は、「うまく言えないけど、そうしないほうがいいだろう」と思って、電源を落とし、かぼん鞆の奥にしまいました。

代わりに、外の風景をただ眺めたり、近くにいる親戚と何でもない話をしたり、ただ沈黙したり、頭の片隅に浮かんだことを手帳に書いて整理したりしました。ただ、そうしている間も、スマートフォンの電源をつけようか、あるいはテレビのあるところにも行こうかという思いが頭によぎっていました。

ここで失われ（かけてい）たものが、〈孤独〉です。退屈に耐えきれず、何か刺激やコミュニケーションを求めている。自分自身と過ごすことができないということです。〈孤独〉という言葉を通して、刺激を求めたり他者への反応を優先したりすることなく、自分一人で時間を過ごすことの重要性が語られているわけですね。

（谷川嘉浩『スマホ時代の哲学』）

問一 ① 広ギとあるが、この部分のカナを漢字に直した時に適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 儀      ② 議      ③ 義      ④ 疑

問二 I      III に当てはまる語として最も適切なものを次よりそれぞれ選び、番号をマークしなさい。

- ① つまり      ② あるいは      ③ しかも  
④ 例えば      ⑤ もちろん      ⑥ しかし

問三 ② もう忘れて久しい感覚とあるが、どのような感覚かを説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 画面の向こう側のやりとりを優先して、現実の活動を中断することを不自然に思う感覚。  
② 対面での会話とモバイル端末を用いた会話を同列に考えて、処理しているように感じる感覚。  
③ 携帯電話での会話を優先するために、対面での会話のやりとりを疎かにしてしまう感覚。  
④ 現実での会話ばかりにこだわって、モバイル端末を使ったやりとりを信用できない感覚。

問四 ③ 物理的にある場所においても、実際は別の所にいることとあるが、この部分の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 物理的な作業をしている最中であっても、スマホがあることでその作業に集中できなくなること。  
② 現実世界で何かを行なっている途中でも、スマホを取り出しSNSの世界で活動してしまうということ。  
③ スマホを取り出し音楽や動画の世界に没頭することで、現実の退屈さを忘れることができるということ。  
④ マルチタスキングが当然になり、現実世界とSNSの世界との区別がなくなっているということ。

問五 ④ 「常時接続の世界」とあるが、どのような世界かを説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 常にここではないどこかに接続できるようになったことで、強固な人間関係が作れない世界。  
② 常時様々なコミュニケーションに参加することで、特定の何かにこだわるのが否定される世界。  
③ スマホとSNSが普及したことによって、いつでもどこにいても誰かと繋がることを求められる世界。  
④ 持ち歩けるデバイスの出現によって、退屈な時間を常に埋めることができるようになった世界。

問六

Xに当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 保守的      ② 実用的      ③ 合理的      ④ 中立的

問七

⑤ フォークスの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 救済する      ② 合致する  
③ 注目する      ④ 報告する

問八

⑥ 「そもそも論」に巻き込まれていくとあるが、この部分の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 技術が感性のあり方を変化させることを認めた上で、それに抗う方法を論じることになるということ。  
② 技術の良し悪しについて考えるだけでなく、それを導入すべきかどうかを論じることになるということ。  
③ 技術について考えていく中で、自分たちが本当に大切にすべきものを論じることになるということ。  
④ 技術は人間の生き方を変化させるものではないという前提のもとに論じることになるということ。

問九

⑦ 反射的なコミュニケーションとあるが、どのようなコミュニケーションかを説明したものととして適切でないものを選び、番号をマークしなさい。

- ① ちよつとした休憩時間にスタンプを利用して複数人と同時にLINEでやり取りをしている。  
② Youtubeでたまたま見た広告に興味を持って、実際に映画館まで映画鑑賞に出かけた。  
③ SNS上で話題になったニュースに対する目についた投稿をよく読みもせずに拡散している。  
④ アプリから通知が来ているおすすめの本をよく説明も見ないまま買わずに放っておいた。

問十

⑧ ここで失われているのが〈孤立〉ですとあるが、筆者の述べる「〈孤立〉」について説明したものととして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 周囲のあらゆる刺激から完全に切り離されていて、一つの事に集中している状態。  
② 他者との対話や関わりが完全にない中で、多様な感覚刺激を受けている状態。  
③ メディア技術が発達したことで、マルチタスキングによる注意の分散がみられる状態。  
④ 常時接続の世界の中で、より密度の高いコミュニケーションがとれている状態。

問十一 アテンションエコノミーとあるが、この言葉の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① あらゆる商品やサービスがそのものの自体の価値ではなく、どれだけ多くの注意を奪えたかによって価値が決まる経済。
- ② ウェブ上での広告やインフルエンサーを利用することで、より良い商品をより多くの人に分散させようとする経済。
- ③ クリック数や登録者数が価値を決める仕組みができており、私たちは受動的に情報を受け取ることしかできない経済。
- ④ SNSを通じて誰もが注意の奪い合いに参加することで、企業と同様に利益を上げることができる可能性のある経済。

問十二 相手の人格や心理状態を想像しないようにと日夜練習を積み重ねているようなものとあるが、この部分の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① スマホを通した反射的なやりとりが多いことで、相手の人格や心理に配慮することが嫌悪されるようになったということ。
- ② 相手の感情や性格にいちいち反応しないようにすることで、心理的に自分が傷つくことを避けるようにしているということ。
- ③ 日常的にスマホに注意をむけているために、対面での会話に集中してもうまくコミュニケーションができないということ。
- ④ 様々な事柄を同時並行して行うために、対面している相手について時間をかけて考えることをしなくなっているということ。

問十三 〈孤独〉を欠いた状態とあるが、どのような状態かを説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① どんな時でも自分自身の心のままに、スマホやテレビといった娯楽におぼれてしまう状態。
- ② 自分自身の感情と深く向き合うことができずに、何かしらの刺激や反応を求めてしまう状態。
- ③ 自分自身との対話をするができずに、他者になんでも話すことで刺激を得ようとする状態。
- ④ 他者と触れ合う時間を上手く作れないため、親しいものとの別れもうまく受け入れられない状態。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

工藤<sup>さとし</sup> 衿にとつて、いつもとまったく変わりのない金曜日だった。午前中に洗濯と掃除を終えて、昨日の残りものに手を加えたかんたんな昼食を作つて娘の春香と食べ、春香が昼寝をしているあいだ今日買うべきものをメモ書きする。トイレットパーパーもそろそろなくなりそうだ、それからリンス、夕食の材料。目覚めた春香を連れて、三時過ぎ、衿はマンシオンを出る。まったくいつも通りの金曜日である。

マンシオンからほど近いクリーニング屋にいき、出しておいた憲一のYシャツをピックアップし、横断歩道を渡つて続く商店街中程にある八百屋で、野菜だけを買う。

あ、しまった、と衿は思う。クリーニングは帰りにピックアップすべきだった、これじゃ荷物を抱えてスーパーにいかなければならぬ。いつもクリーニングは最後と思うのに、忘れて先に寄っちゃうんだよね。

このささやかな失敗に気がついたときから、衿のなかで微妙にちいさな変化が起きた。けれどそれに気づかず、衿は商店街を軽やかに歩く。梅雨が近い<sup>①</sup>らしいが、まるで夏のような陽気である。商店街の先、駅へと続く光景が、水に映つたようにゆらゆら揺れて見える。

「ママ、あのね、プール、いつやる？」<sup>②</sup>衿の右手をしっかりと握りしめた春香が訊く。

「うーん、あともう少しかな。雨が降らなくなったら、パパがベランダにプールを出してくれるよ」

「雨、ないない」春香は最近よくしゃべるようになった。

「今日は降っていないけども、もうすぐ雨が降るんだよ。毎日毎日雨続き」説明するが、けれど春香は、雨、ないない、とくりかえす。あと何日かすれば梅雨という季節がやってきてそうしたら肌寒くなってプールどころではなくなつて……と、春香に話してやる<sup>③</sup>ことが、唐突に、猛烈に、衿は面倒になる。そうねー、ないないね、衿は口調を合わせ、それでその話は切り上げようとした。しかし春香は引き下らない。

雨ー、プール、プールは？ 雨、ないないよー。衿を追いつめるかのごとくくりかえし、そのたびに声が大きくなっていく。

なんだってこの子はこうもしつこいの？ 心のなかでだけ衿は言う。ちいさな変化は少しだけ大きくなり、軽やかな足取りが

**A** と速くなる。けれどそのことに衿はまだ気づかない。ママー、はーやーいー、という春香のクレームも聞き流し、駅前のスーパーマーケット目指し<sup>④</sup>衿はずんずん歩く。

夕方にはまだ早いスーパーマーケットは空いていて、衿と似たような主婦がのんびりと買いものをしている。春香の手を引きながら買ものかごにメモ通りの食材を入れていく。お菓子の前で、あれを買えこれを買えと春香がぐずるのもいつも通り。買いものを終え、荷物が重くてげんなりするのめいつも通り。

⑤ 衿が、自分の内に起きた変化に気がつくのは、スーパーマーケットを出て、駅前ロータリーにあるブティックの前を通りかかったときだった。

つい先月まで、あんまり客の入っていないラーメン屋だったはずの店舗が、いつのまにか明るい雰囲気のブティックに変わっている。ブティック「フラン」。開店したばかりなのか、軒先には見事な花がいくつも並んでいる。「あら、ぜんぜん気がつかなかった」独り言を言つて、衿はショーウィンドウの前に立つ。二体あるマネキンは、どちらも夏の服を着ている。あざやかな花柄のワンピース、白いフレッチスリーブにストライプのフレアスカート。ショーウィンドウには背後の青空が映っていて、それらのファッションは青空によくはえている。店内には四十代半ばくらいに見える女性がいた。サファリシャツに、ベージュのワイドパンツを合わせた女性は、にこやかに接客している。そうして衿は、ショーウィンドウに薄く映る自分の姿に気がついた。紺と白のストライプカットソーに、ベージュのコットンパンツ。両手に提げた大荷物。さつきスーパーマーケットですれ違った主婦の五割が、似たような格好だった。動きやすくて、清潔感があるから好きだったその組み合わせが、<sup>⑥</sup>名前も個性もなくしてしまったような「ザ・主婦」的格好に、衿には思えてくる。

そのときブティックのドアが開き、店主らしき女が「どうぞ、よろしければ」と衿に笑いかける。いきなり声をかけられぎよつとした衿は、ぎこちない笑顔で会釈して、Bとその場を立ち去る。またいらしてくださいね、と背後から声が聞こえた。

無視して悪かったかと、ちらりと衿は思う。きれいな人だった、私はあの人くらいの年齢になったとき、あんなふうにきれいでいられるかしら？

片手にはスーパーとクリーニングと八百屋の袋、片手で春香を引っぱって、急ぎ足で歩きながら、衿は、ようやくさつきから肥大し続けている気持ちの変化に気づくのである。今まで、いつもと変わらないことはつねに衿に安心感を与えてきた。けれど今や、いつも通りの金曜日、いつも通りの昼下がり、飽き飽きしている自分がある。毎日毎日、おんなじことのくりかえし、憲一はありがとうすらも言わないではないか。不当で理不<sup>⑦</sup>尽な目に遭わされているとすら、衿は感じはじめる。「ママ、プリンいつ食べるー？」と訊く春香を無視し、衿はパンツのポケットから携帯電話を取り出す。

今日からストライキに突入します。と、衿はメールに猛然と打ちこむ。家事はすべて放棄します。こちらの要求は、温泉旅行もしくは夏服一揃えもしくはブランドもののバッグ。

そして鼻息を荒くして、送信ボタンを押した。

七時に憲一が帰ってきた。両手にレジ袋を抱えている。リビングのソファに寝転がってテレビを見ていた衿は「早いね」と、<sup>⑧</sup>できるだけ感情のこもらない声を出す。

「だってストライキなんだろ、おれが作らなきゃ夕飯にありつけないんだろ」あたふたと言いながら、憲一はカウンターキッチンに入っていく。着替えもせずに、何を作るつもりなのか、流しの棚を開けたり閉めたりする音が聞こえてくる。料理なんかできるのかしら。小気味いい包丁の音が聞こえてくる。にんにくのおいが漂ってくる。衿はそろそろと立ち上がり、キッチンをのぞきにいった。シャツの袖をまくり上げ、ボウルにひき肉を入れて憲一は懸命に練っている。顔を上げ、「おい、春香」娘の名を呼ぶ。呼ばれた春香は転がるように台所に向かう。

「パパとおまんじゅう作ろう」

「おまんじゅう」

「うん、ミートボール。泥団子作るみたいにさ」

二人はダイニングテーブルへと移動し、ボウルの中身を丸めてバットに並べていく。春香の作った、かたちにならないひき肉を、すばやく憲一は丸めなおしていく。

「料理、できるの」衿が訊くと、

「学生るとき、居酒屋でバイトしてたからね」憲一は得意げに答えた。春香は夢中になってひき肉を丸めている。

ぴったりと寄り添ってミートボールを作る父娘を、<sup>⑨</sup>少し離れた場所から衿は見つめた。

ああ、私、結婚したとき、こんなふうな家庭を作りたいと思ったんだっとなあ。そんなことを、ふと思う。

夕食は、ミートボール入りのトマトシチュウのようなものだった。サラダもなし、つけあわせもなし。薄く切った朝食用のバゲットがテーブルの真ん中に置いてある。

「野菜がたっぷり入ってるからこれ一品で栄養バッチリ」憲一は不安げな顔の衿に言う。たしかに、トマトスープには黄と橙のパプリカやズッキーニが色鮮やかに浮かんでいる。ミートボールを口に運ぶと、肉だけではない複雑な味がする。「セロリと椎茸とピーマン入り」憲一は衿の耳元でささやく。すべて春香の嫌いなものだ。正体がわからないほど、それらは細かく切つてある。スプーンで汁を口に運ぶと、タイムやオレガノの風味がした。「おいしい！」思わず衿が言くと、「おいひー」ミートボールをかじった春香も真似て言う。憲一は褒められた子どもみたいに顔をゆるませた。

「それでさあ、あのう、要求の件なんだけど、三つのうちのどれが一番……」と言いかけた憲一を、衿は遮る。

「四つ目の要求が思い浮かんだ。一カ月に一度でもいいからこうして夕食を作ってくれること。それだけでいいわ。温泉もバッグもいりません」

「えっ、そんなんでいいの？」憲一は **C** を丸くして驚いている。

「じゃ、二週間に一度」衿は急いでつけ加えた。

「レパートリーが持つかなあ」憲一は本気で心配らしく、宙を見据え何かつぶやいている、

「それから、おいしいものを食べたら私みたいに『おいしいっ』って正しくリアクションをすること」

「え、おれいつもおいしいって言っていない？」

「ときにはお礼も言ってくれること」

「あー、はいはい。すみませんねえ」

憲一はぺこりを頭を下げ、衿は笑い出してしまふ。春香も真似して笑う。たまにはストライキもいいもんね、と衿はこっそり思う。まるで大昔に思えるけれど、結婚しようと思ったとき、こうありたいと思い描いた光景を、こんなふうに思い出せるのならば。

(角田光代『ストライキ中のミートボールシチュウ』)

問一

A、B に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ふわふわ                      ② ゆったり                      ③ そそくさ  
④ せかせか                      ⑤ ハラハラ                      ⑥ トボトボ

問二

① まるで夏のような陽気であるにおいて使用されている修辞法として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 直喩                      ② 隱喩                      ③ 擬人法                      ④ 倒置法

問三

② 衿の右手をしっかりと握りしめた春香の心情を説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① これからプールができるかもしれないという期待をしている気持ち。  
② プールを絶対にやりたいという意志を母親に示そうという気持ち。  
③ 夏のような暑さと湿度で体力を奪われて母親に助けを求める気持ち。  
④ 母親から離れることのないようにしっかりとつかまっていようという気持ち。

問四

③ 唐突に、猛烈に、衿は面倒になると衿が思った理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 丁寧の説明してあげようという思いがあつたが、幼ない春香に説明をすることを急に避けたいと感じたから。  
② 同じことを繰り返し話す春香を許せなくなつて、説明をしてあげようという気持ちになつてしまったから。  
③ 今日の微妙な失敗に対するイライラが春香の態度へのイライラに変わつて説明する気がなくなつてしまったから。  
④ いくら説明をしても春香は納得しないのだろうと気づき、説明をしても無駄だと感じたから。

問五

④ 衿はずんずん歩く時の衿の心情の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 暑さもあつて早くスーパーマーケットに着いて涼みたいという気持ち。  
② 春香のしつこさに嫌気がさしてイライラしている気持ち。  
③ 何もかも忘れて一心不乱に今日の目的を達成しようという気持ち。  
④ しつこい春香に対して急いで歩くことで反省させようという気持ち。

## 問六

⑤ 衿が、自分のうちに起きた変化に気がつくところがあるが、変化の内容の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 変わらぬ日常を懸命に提供しようとする自分に無意味さを感じて、新たな自分を探す必要性を感じたこと。
- ② 刺激のない日常生活に飽きたばかりでなく、夫や子どもに対して誠意を持って対応している自分に嫌気がさしていること。
- ③ 変わらぬ日常に安心感を与えていたつもりであったが、同じことの繰り返しに飽きている自分と周囲の反応に疑問を持ち始めていること。
- ④ 良き妻であり良き母であらうとしてきた自分の限界を感じて、全てを投げ出して現実から逃げ出そうとしていること。

## 問七

⑥ 名前も個性もなくしてしまったような「ザ・主婦」的格好に、衿には思えてくるの説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ブティックに並ぶ服や店内の女性の服を見て、今まであまり気にも留めていなかった自分のありきたちの日常や格好を気付かされた。
- ② これまで快適だと思った服装をしていた自分や他の多くの主婦たちは、ありきたりな日常生活にいつの間にか飲み込まれていることに気付かされた。
- ③ ブティックに並ぶ服や店内の女性の服と自分の服装と比較すると、自分をはじめに感じさせられた。
- ④ 個性的な店内の様子や店員の服装を見て、日常に埋もれてしまっている自分の存在意義について考えさせられた。

## 問八

⑦ 理不尽の意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① うまく当てはまらないこと。
- ② 心に痛みや苦しみを感じることに。
- ③ よくない状況に置かれること。
- ④ 物事の筋道が立たないこと。

問九

⑧ できるだけ感情のこもらない声を出すところがあるが、その時の  
衿の心情の説明として最も適切なものを次より選び、番号  
をマークしなさい。

- ① ストライキを宣言した以上、通常通りの接し方はしては  
いけないという気持ち。
- ② 夫に怒りをぶつけたからには、いつもと異なる自分を演  
じなくてはならないという気持ち。
- ③ 夫の早い帰宅は嬉しかったが、あえて冷たい対応をしな  
いと自分の立場がなくなるという気持ち。
- ④ 夫に自分のストライキの本気度を伝えるために、感情を  
消すことでリアルな雰囲気を作り出そうという気持ち。

問十

⑨ 少し離れた場所から衿は見つめた時の衿の心情の説明とし  
て最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分の理想の家庭を築いていきたいと決意を新たにしてい  
る。
- ② 料理がうまく作れるのかハラハラしながら心配している。
- ③ 仲良く料理を作る父と娘の関係を微笑ましく思っている。
- ④ 二人の様子を気にしている自分に気づかれないようにし  
ようと思っている。

問十一

C に当てはまる語と同じものが空欄に当てはまる  
慣用句として最も適切なものを次より選び、番号をマーク  
しなさい。

- ① ☐ が早い
- ② ☐ が泳ぐ
- ③ ☐ が浮く
- ④ ☐ が走る

問十二

⑩ たまにはストライキもいいもんね、と衿はこっそり思う  
ところがあるが、その時の衿の心情の説明として最も適切なもの  
を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 変わらない日常の中にストライキという非日常を経験し  
たことで、忘れかけていたものを取り戻すことができた  
という幸福感。
- ② 日頃我慢していた感情をぶつけることで、生活に変化を  
生み出し、新たな発見を得ることができたという満足感。
- ③ ストライキをしたことで、夫が料理をできることや娘と  
父親との関係の改善など、生活を好転させることができ  
たという納得感。
- ④ ストライキをしたことで、日常の中で気づくことのでき  
なかった結婚当初の想いを思い出すことができたという  
喜び。

問題は次頁に続く

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①やまと 大和の国なりける人のむすめ、いと清ら<sup>A</sup>にてありけるを、京より来<sup>き</sup>たりける男のかいまみて見るに、いとをかしげなりければ、盗<sup>ぬす</sup>みてかき抱<sup>いだ</sup>きて馬にうちのせて逃げていにけり。②いとあさましようおそろしう思ひけり。日暮れて、龍田山<sup>たうたやま</sup>に宿<sup>やど</sup>りぬ。草のなかにあふりをとさしきて、女を抱<sup>いだ</sup>きてふせり。女、おそろしと思ふことかぎりなし。わびしと思ひて、男のものいへど、③いらへもせで泣きければ、男、たがみそぎゆふつけど<sup>③からころも</sup>りか唐衣<sup>からころも</sup>たつたの山にをりはへてなく

女、返し、

龍田川岩根<sup>いはね</sup>をさしてゆく水のゆくへも知らぬわがごとやなく

とよみて死にけり。④いとあさましようてなむ、男抱<sup>いだ</sup>きもちて泣<sup>⑤</sup>きける。

〔大和物語〕

問一 現代語訳として最も適切なものをそれぞれ次より選び、番号をマークしなさい。

A  
いと清らにてありけるを

- ① 本心に心やさしかった人を
- ② とてもかわいそうだった人を
- ③ たいそうきれいだった人を
- ④ 最も正直だった人を

B  
いらへもせで

- ① 怒らないで
- ② 歌も詠まないで
- ③ 打ち解けないで
- ④ 返事もしないで

問二 大和に該当する現在の都道府県として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 京都
- ② 奈良
- ③ 大阪
- ④ 兵庫

問三 いとあさまじうおそろしう思ひけりの主語として最も適切なものを次より選び、記号で答えなさい。

- ① 男
- ② 女
- ③ ゆふつけどり
- ④ 馬

問四 唐衣は「たつ」という語を導き出すために使用される言葉である。この表現技法の名称として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 枕詞
- ② 掛詞
- ③ 体言止め
- ④ 対句

問五 いとあさまじうての理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 男は女が死んでしまったことに驚きあきれた。
- ② 男は女が自殺したことをあわれに感じた。
- ③ 女は男と一緒にいることに耐えられなくなった。
- ④ 女は行く先が不安で家に帰りたくなった。

問六 けるの活用形を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形
- ⑥ 命令形

問七 「大和物語」は平安時代に成立した作品である。同じく平安時代に成立した作品を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 奥の細道
- ② 徒然草
- ③ 竹取物語
- ④ 古事記